



おおあし

第8号

《 大芦小HP <https://oashi-e-konosu.edumap.jp/> 検索 》

「仲良し過ぎる」集団

11月20日、21日の2日間、鎌倉・箱根方面に6年生の修学旅行を引率して参りました。初めて海を見る児童もいたようで、朝日に照らされた煌びやかで広大な相模湾を目の当たりにしたとき、バス内は大きな歓声に包まれました。貝拾いをしながら、波が来る度にキャーキャーとはしゃいでいた姿がとても印象的です。子どもたちは新しいことを進んで知ろうとしたり、より深く理解しようとする意欲が非常に高く、どの見学地においても本当に熱心に学習していました。地元では味わえない自然を体感すると幸せを感じ、素直に美しいと表現することができます。詳細に指示をしなくても、自分たちで先を見据えて行動することができ、よりよい環境で集団生活をしようと自ら節制することもできます。「みんなで話し合っ協力し生活することが楽しい」ことを実感しながら、6年間変わらず一緒に歩んできた仲間との最後の旅行であるこの2日間を充実させたようです。この6年生とは、私が教頭のとときに引率した林間学校に続いて2度目の宿泊学習引率となりますが、いつも本当に心地がよく、全員が仲良しで、今回も宿泊的行事のねらいである「よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積む」ことができ、それを100%実行していました。

さて先日、大リーグのマリナーズ等で活躍したイチロー氏が高校生の野球部員を指導した際、あるチームの印象を「仲良し過ぎる」と語ったことがありました。そう指摘したのは「仲が良いのはいいことである。」とした上で、「今の時代のあり方は、誰からも嫌われたくないというのが多い。それではなかなかチームは切磋琢磨していかない。我慢して、もちろん認めることも大事だけど、戦わせるのも大事。バランス良く共存していけるのがいい。」それに加えて、「言わなきゃいけないことは同級生・先輩・後輩に関わらずきちんと指摘し、そういう関係が築けたらチームや組織は絶対強くなる。」と述べています。確かに、よりよい集団にするためには課題である部分を見つけ、それを克服しようと互いに高め合っいこうとすることが理想ではあります。しかし、そのことが過度になりすぎてしまったり、全体に浸透しにくいことであつたりすると、結果的にねたみや偏見を生み、せっかく培った人間関係を崩してしまうこともあるでしょう。本校は現在、どの学年も22名以下の単学級であり、クラス替えもなく入学してからの人間関係の変化は他の学校に比べると少ないです。そのことを知ってか本校の児童は、その場所に長く共存し信頼関係を保っていくために、歩調を合わせ集団に属していこうとする傾向は全体的に強いかなとは感じます。しかし、本校の「仲良し過ぎる」集団の6年生は、イチロー氏の言うとおりに、ある程度の言いたいことはこれまでもきちんと話し合っってきた関係であり、それによってより強固な信頼関係を築いてきた集団であると感じます。だからこそ良いことは素直に褒め合い、ダメなことは相手を尊重しながら指摘し合える、ここは誰に任せようと仲間を信頼できる、自分も負けないよう最善を尽くそうとすることができるのだと思います。

もちろんまだ小学生であり成長途中です。これからも学校生活等で、切磋琢磨するために争うこともあるかと思いますが、でも、謙虚さを備えつつ、きちんと自分を表現することもできる6年生、卒業までのこれからの日々にも期待が膨らみます。

（校長 横尾 臣）